

2021年3月期 期末
決算説明会

2021年5月27日

三櫻工業株式会社

(証券コード：6584 東証一部)

2021年3月期 決算の概要

2021年3月期 期末 連結損益状況



	2020年3月期 実績		2021年3月期 実績				2021年3月期 通期予想 (2/12修正)	
	金額 (百万円)	売上高比 (%)	金額 (百万円)	売上高比 (%)	対前年同期		金額 (百万円)	達成率 (%)
					増減額 (百万円)	増減率 (%)		
売上高	142,707	100.0	113,657	100.0	▲29,050	▲20.4	112,000	101.5
営業利益	5,452	3.8	3,486	+3.1	▲1,966	▲36.1	3,100	112.5
経常利益	4,725	3.3	3,766	+3.3	▲959	▲20.3	3,300	114.1
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,177	1.5	3,630	+3.2	+1,453	+66.7	2,700	134.5

● 2021年3月期 期末業績概要 (対前年同期比)

- ▶ 売上高：新型コロナウイルスの感染症拡大による売上減少を受け、▲29,050百万円減収となるが、各地域とも下期は回復し、上期対比で減収率は大幅に縮小。
- ▶ 営業利益：下期における各地域の売上回復及び固定費削減の効果等により、上期の営業赤字から3,486百万円の営業黒字へ転換。
- ▶ 経常利益：営業利益の回復、為替差損の減少及び助成金収入の計上により営業利益と比較して減益額は縮小。
- ▶ 純利益：経常利益の回復、投資有価証券売却益及び受取保険金の計上もあり、前年同期比で+1,453百万円増益。

● 為替レート

損益換算レート (単位：円)	2020年3月期 平均レート	2021年3月期 平均レート	変動率
ドル	109.1	106.8	▲2%
ユーロ	122.1	121.8	▲0%
メキシコペソ	5.7	5.0	▲12%
人民元	15.8	15.5	▲2%
インドルピー	1.6	1.4	▲7%
タイバーツ	3.5	3.4	▲3%
ロシアルーブル	1.7	1.5	▲12%
ブラジルリアル	27.7	21.0	▲24%

2021年3月期 期末 セグメント別実績



	売上高			営業利益		
	2020年3月期	2021年3月期	対前年同期増減	2020年3月期	2021年3月期	対前年同期増減
	実績 (百万円)	実績 (百万円)	実績 (百万円)	実績 (百万円)	実績 (百万円)	実績 (百万円)
日本	54,224	44,202	▲10,022	2,762	364	▲2,398
北南米	41,756	31,621	▲10,134	988	251	▲738
欧州	26,274	20,533	▲5,742	▲739	772	+1,512
中国	20,501	20,419	▲82	808	1,460	+652
アジア	22,027	15,480	▲6,547	1,875	740	▲1,135
連結調整	▲22,074	▲18,598	+3,477	▲242	▲100	+142
合計	142,707	113,657	▲29,050	5,452	3,486	▲1,966

● 2021年3月期 期末の地域別業績のトピックス (対前年同期比)

- 日本【減収・減益】 7月以降の売上回復が継続し、構造改革と固定費削減などの施策効果も現れ、通期で黒字転換を達成。
- 北南米【減収・減益】 上期は新型コロナウイルスの感染症拡大の影響により大幅減収となったが、下期の売上は当初計画水準まで回復。また、構造改革の実施により固定費削減も進み、通期で営業黒字を達成。
- 欧州【減収・営業黒字】 7月以降の顕著な売上回復に加え、前年度より実施している構造改革の効果及び時短勤務や政府補助金制度の活用を含めた固定費削減も大きく寄与し、前期の営業損失から大幅に利益は改善し黒字転換を実現。
- 中国【減収・増益】 第1四半期に一時生産を停止した影響により減収となったものの、第2四半期以降の市場回復が寄与し、通期でも前年並みの売上を達成。また、固定費削減や政府補助の申請を含めた施策効果もあり、対前年同期比で増益。
- アジア【減収・減益】 第4四半期に売上は前年水準まで回復し、構造改革、固定費削減に努め、対前年同期比で減益となるも通期で営業黒字を達成。

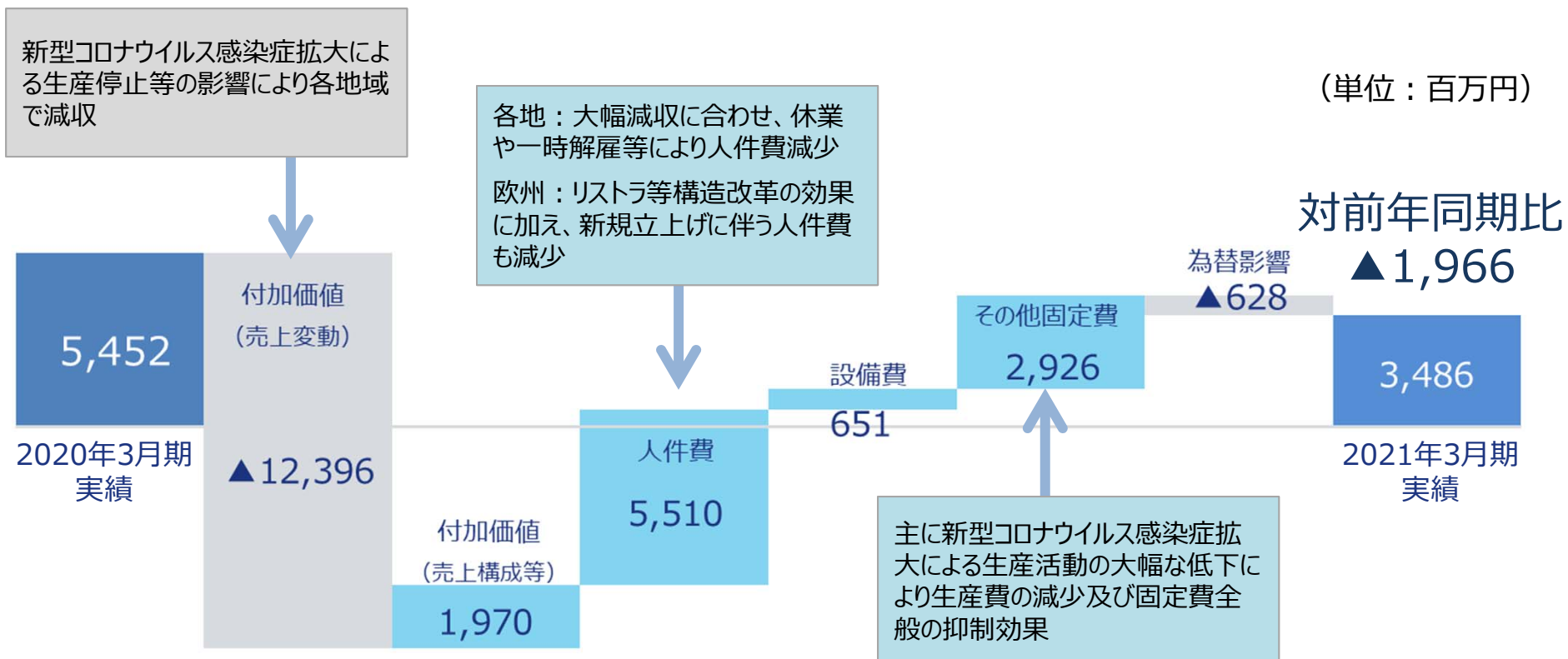
2021年3月期 期末 営業外及び特別損益等



(増減額の符号は対利益符号)

連 結	2020年3月期 実績	2021年3月期 実績			主な増減要因 (金額は百万円)	
	金額 (百万円)	金額 (百万円)	対前年同期			
			増減額 (百万円)	増減率 (%)		
営業利益	5,452	3,486	▲ 1,966	▲ 36.1		
営業外 損益	営業外収益	853	1,251	+ 399		助成金 +683 受取配当金 ▲123 その他 ▲174
	営業外費用	1,579	972	+ 607		為替差損の減少 +602
経常利益	4,725	3,766	▲ 959	▲ 20.3		
特別利益	2,003	2,106	+ 102		固定資産売却益 ▲1,939 投資有価証券売却益 +1,247 受取保険金 +795	
特別損失	1,357	196	+ 1,161		減損損失の減少 +842 (前年同期：日本▲247、欧州▲595)	
税引前当期純利益	5,372	5,675	+ 304	+ 5.7		
法人税等	2,462	1,743	+ 718			
非支配株主利益	733	302	+ 431			
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,177	3,630	+ 1,453	+ 66.7		

前年同期比大幅減収のマイナス影響を固定費削減努力等により挽回し、通期で黒字を確保。



注：付加価値（売上変動）＝連結全体の売上増（為替補正後）×前期付加価値率（為替補正後）

2021年3月期 期末 連結財務状況：対前期末



連 結		2020年3月期末		2021年3月期				
		実績 (百万円)	構成比 (%)	金 額 (百万円)	構成比 (%)	対前期末増減額 (百万円)	主な増減要因 (百万円)	
資 産	流動資産	53,802	56.9	50,735	58.4	▲ 3,066	総資産： ▲7,738 減少 ① 現預金 ▲1,499 (有利子負債の返済等) ② 棚卸資産 ▲650 (在庫低減活動の効果等) ③ 機械装置及び運搬具等の有形固定資産 ▲3,187 (設備投資の抑制影響及び新興国通貨下落 (特にメキシコペソ) による換算差異) ④ 投資有価証券 ▲670 (上場株式売却影響) ⑤ 繰延税金資産 ▲799 (一時差異の解消等)	
	固定資産	40,796	43.1	36,125	41.6	▲ 4,672		
	資産合計	94,598	100.0	86,860	100.0	▲ 7,738		
負 債	流動負債	41,042	43.4	33,929	39.1	▲ 7,113		負債総額： ▲9,244 減少 ⑥ 有利子負債 ▲7,250 (有利子負債の圧縮)
	固定負債	19,584	20.7	17,452	20.1	▲ 2,132		
	負債合計	60,626	64.1	51,381	59.2	▲ 9,244		
純資産合計		33,972	35.9	35,478	40.8	+ 1,506	純資産： +1,506 増加 ⑦ 利益剰余金 +3,175 ⑧ 為替換算調整 ▲1,266 ⑨ 非支配株主持分減少 ▲916	
負債純資産合計		94,598	100.0	86,860	100.0	▲ 7,738		

(注1) D/Eレシオ…前期末 1.1 → 当期末 0.8

(注2) 自己資本比率…前期末 32.0 → 当期末 37.7

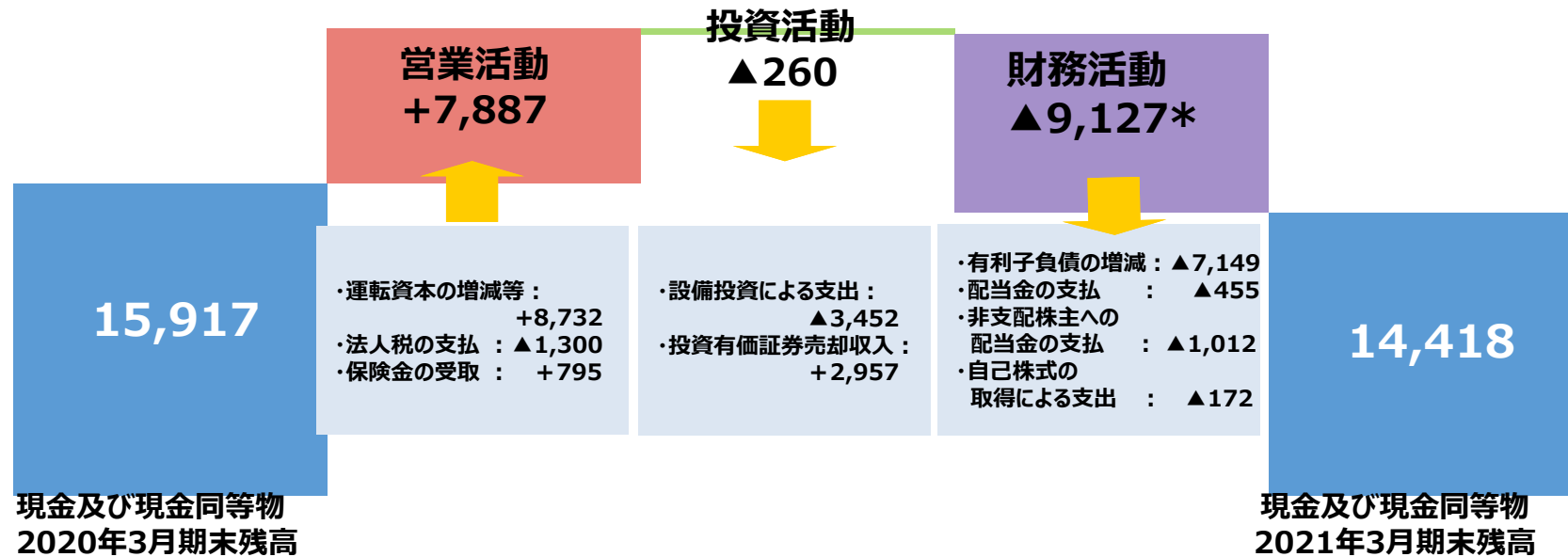
	前期末	当期末
①有利子負債	33,266	26,016
②自己資本	30,295	32,716
①/②	1.10	0.80

2021年3月期 期末 連結キャッシュ・フローの状況



● 2021年3月期 連結キャッシュ・フローの状況

(単位：百万円)



* 現金及び現金同等物に係る換算差額 (▲338百万円) を財務活動に含めております。

● 設備投資/減価償却の状況

(単位：百万円)

	2020年3月期	2021年3月期	
		実績	対前年同期
設備投資額	7,462	3,452	▲4,010
減価償却費	5,296	5,340	44

2022年3月期 通期業績予想



連結	2021年3月期 実績		2022年3月期 業績予想	
	通期 (百万円)	通期 (百万円)	対前期	
			増減額 (百万円)	増減率 (%)
売上高	113,657	118,000	+4,343	+3.8%
営業利益 【営業利益率】	3,486 +3.1%	7,300 +6.2%	+3,814	+109.4%
経常利益 【経常利益率】	3,766 +3.3%	6,900 +5.8%	+3,134	+83.2%
当期純利益 【当期純利益率】	3,630 +3.2%	4,200 +3.6%	+570	+15.7%
一株あたり純利益 (円)	100.16	115.88	+15.72	+15.7%
配当 (円)	15.0	25.0	+10.0	+66.7%

*親会社株主に帰属する当期純利益

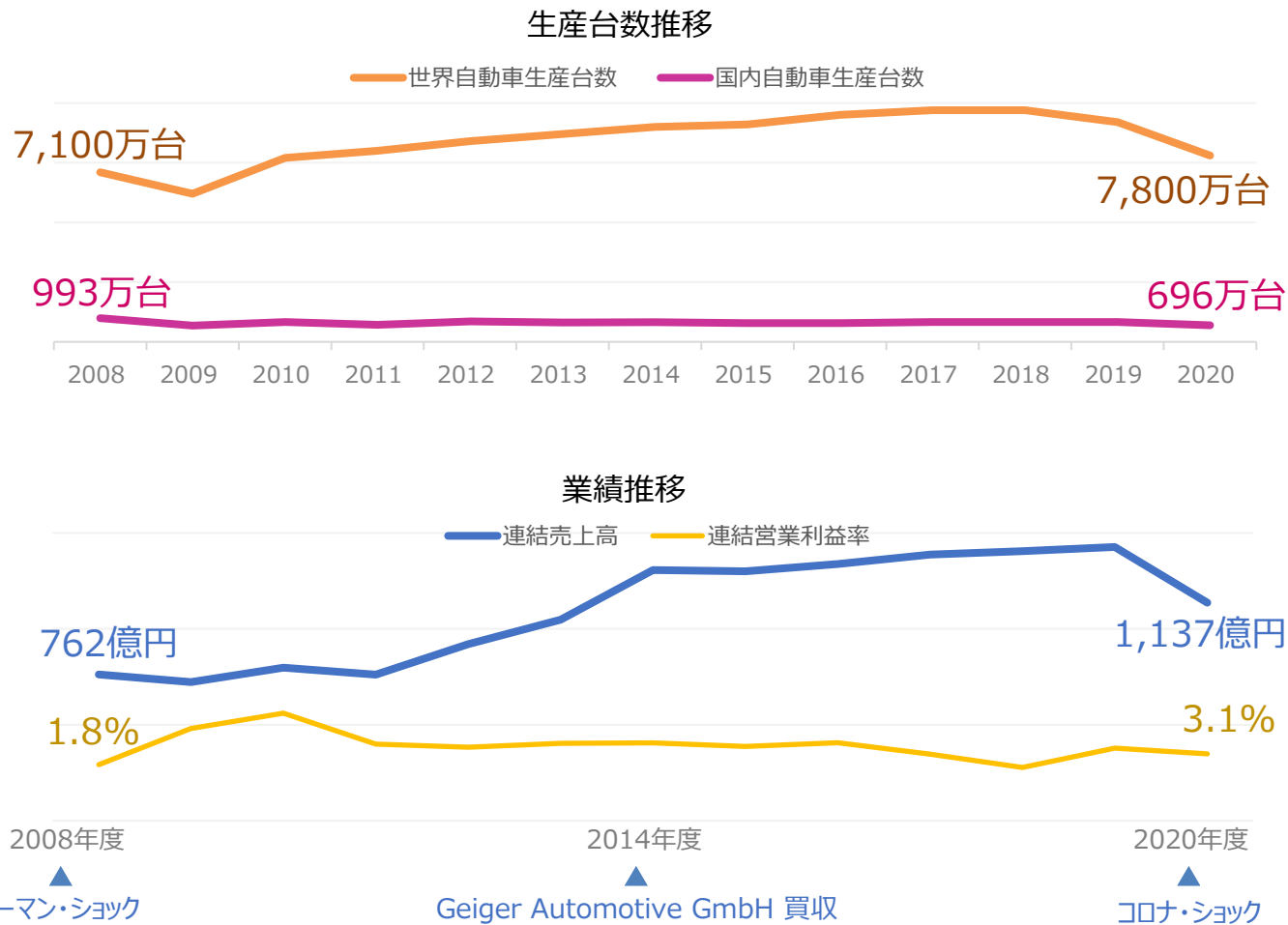
連結	2021年3月期 実績		2022年3月期 業績予想	
	通期レート (円)	通期レート (円)	対前期	
			増減額 (円)	増減率 (%)
米ドル	106.8	105.7	▲ 1.1	▲ 1.0%
ユーロ	121.8	124.7	2.9	+2.4%

◆売上高の変動要因：世界的な物流網の混乱、車載半導体や原材料不足などサプライチェーン全体が不安定な状況に伴い、現時点で把握している減産リスクを折り込むが、年度末に向け自動車生産は回復すると想定。昨年同期より自動車メーカーの生産・販売状況は回復基調にあることを踏まえ増収を見込む。

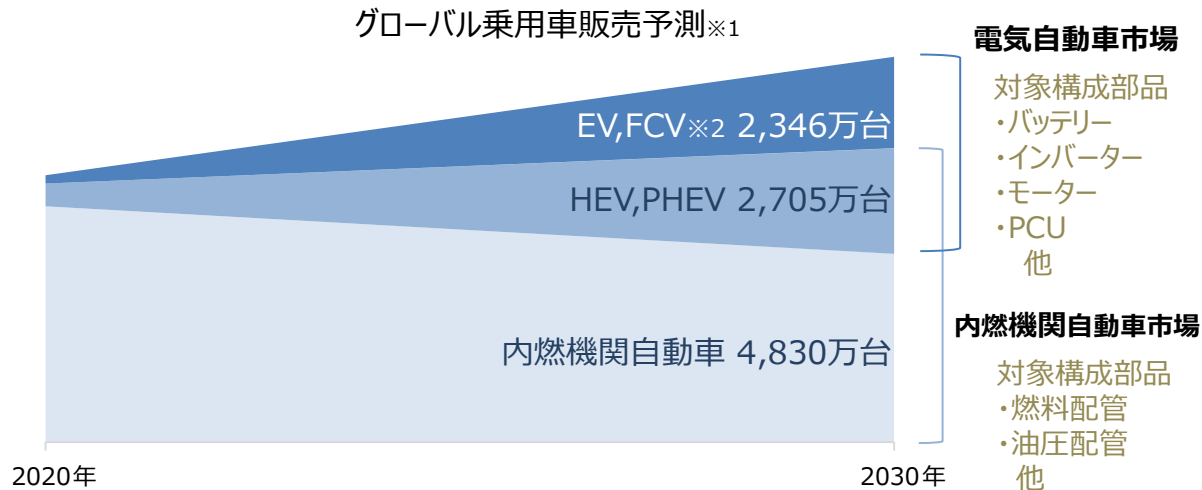
◆利益の変動要因：昨年度実施した構造改革、諸経費、要員削減等の固定費削減による継続的な効果に加え、年度末に向けた売上回復に伴う利益回復を見込む。

中期経営方針の 概要

従来の自動車市場の変化



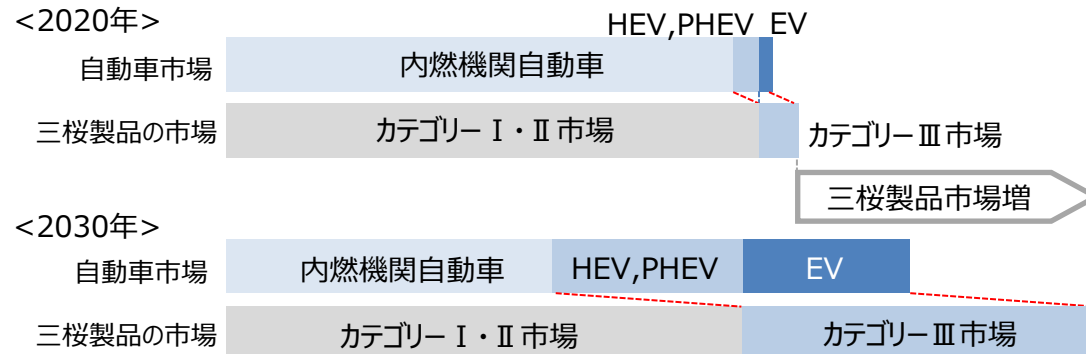
電気自動車構成部品の市場が拡大する



事業カテゴリー

- I 既存事業①
内燃機関自動車のみ使用する製品
- II 既存事業②
内燃機関自動車とEV, HEV,PHEVで使用する製品
- III サーマル・ソリューション事業
- IV 次世代コア事業

製品市場規模の変化イメージ



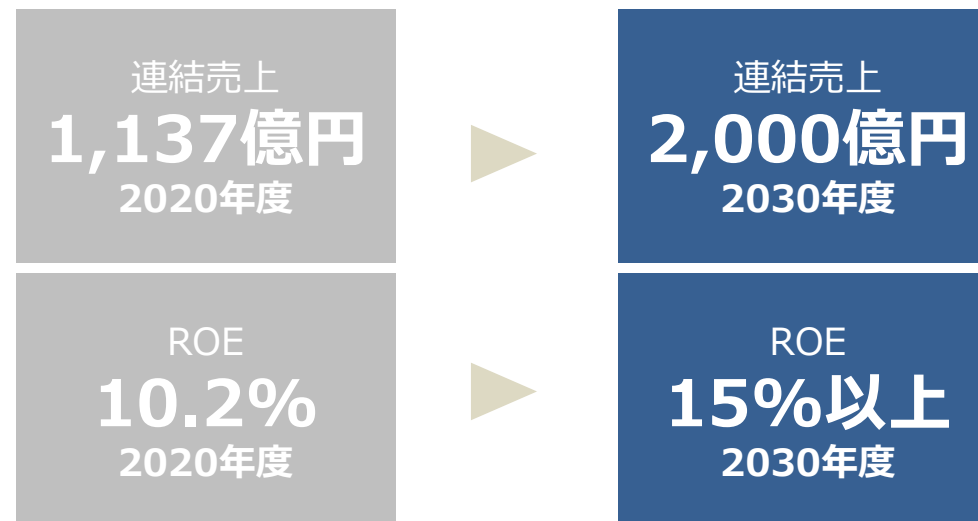
定量目標



アフター・コロナの世界において、平均年率 6 % の成長を目指します

中期方針 3本の柱	▶ 存続する自動車市場において、圧倒的な高収益・高品質基盤を確立する	既存事業
	▶ サーマル・マネジメントのソリューションにおいて世界のトップ・プレイヤーとなり、環境負荷低減に貢献する	サーマル・ソリューション事業
	▶ 自動車事業にとらわれない新事業を創出する 地域経済に貢献する新たな事業を創出する	次世代コア事業

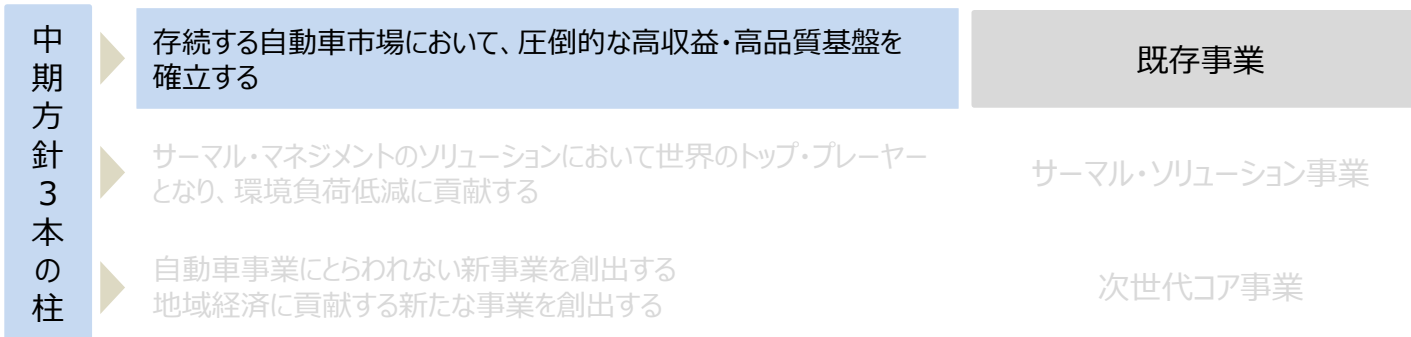
定量目標



既存事業の深化



DXにより、既存事業の収益率と品質保証レベルを更に高度なものに



既存事業売上
1,200億円
2030年度

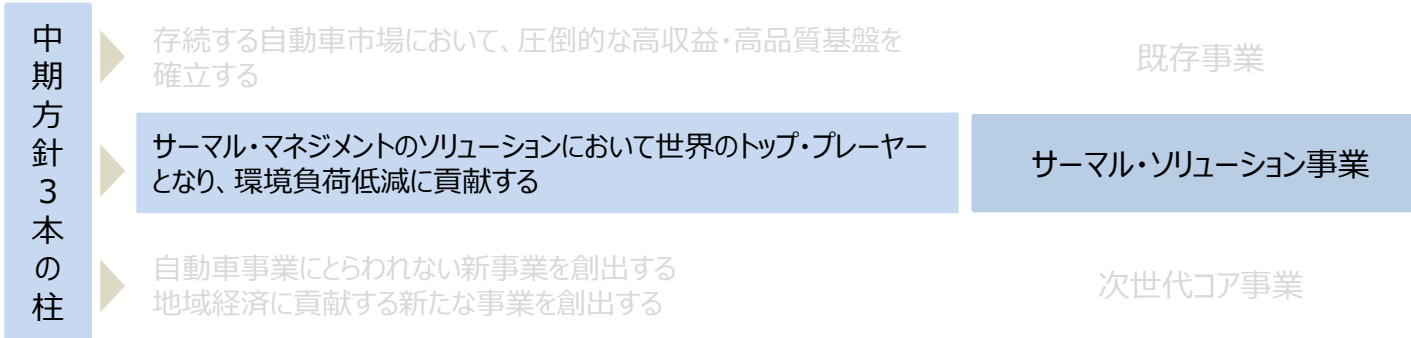
既存事業営業利益率
10%以上
2030年度



サーマル・ソリューション事業の拡大

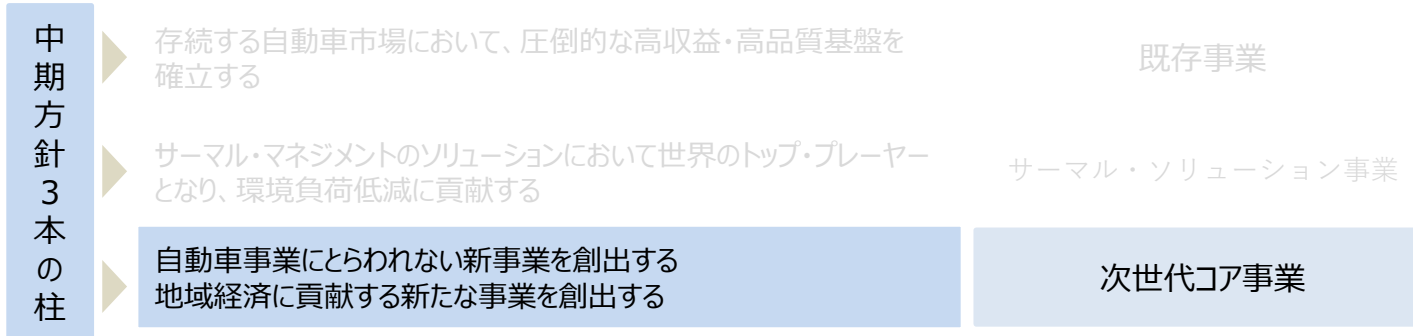


最適な熱輸送設計と品質保証力により、環境負荷を低減する



次世代コア事業の拡大

テクノロジーで社会の課題を解決する



生産ソリューション事業



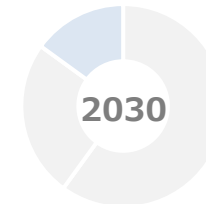
研究開発とCVC



次世代コア事業売上

300億円

2030年度



IV 次世代コア事業

ルマとしてではなく、三桜のブランドを確立するためにESGの強化にリソースを投下する

『環境にやさしい三桜』ブランドの確立
 自動車の軽量化、燃費向上への貢献
 生産プロセスにおけるCO₂排出量削減
 サーマル・ソリューション事業への投資

Environment



テレワーク制度の導入
 事業所内保育施設の運営
 地域・社会貢献活動



TABLE FOR TWOプログラムの導入

Social



Governance



独立社外取締役が取締役会の過半数を占める体制へ
 ダイバーシティの推進
 非財務情報の開示の充実
 IR活動を通じたステークホルダーとの信頼関係の深化



このプレゼンテーションで述べられている三櫻工業株式会社の業績予想、計画、事業展開等に関しましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき判断したものです。

マクロ経済や当社の関連する業界の動向、新たな技術の進展等によっては、大きく変化する可能性があります。

従いまして、実際の業績等が本プレゼンテーションと異なるリスクや不確実性がありますことをご了承下さい。また、大きな変更がある場合は、その都度発表していく所存です。